船の科学館 海の学び ミュージアムサポート
Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

一般財団法人三宅美術館
安藤徹写真展「藍の刻」-写真で巡る海中遺跡と豊かな自然-

開催期間：2021 年 7 月 10 日（土）～2021 年 10 月 26 日（火）

【企画展の内容・目的】

■鹿児島在住の水中写真家・安藤徹氏によるミクロネシア連邦チューク州の海中遺跡の作品をとおし、自然がおりなす独特の風景の美しさを味わい、海中遺跡の保護の必要性、美しい景色を支える生物多様性の大切さについて理解を深めてもらう。

■安藤徹氏本人によるギャラリートークを開催し、作品のエピソードや海の環境について解説してもらうことで、海への理解を深めてもらう。小中学生の親子見学ではダイビング器材や撮影機材を実際に触れる体験をしてもらうことで、海に興味や親しみを感じてもらう。また、安藤氏とビーチクリーンアップを行い、海洋環境について考える機会とする。

1．企画展示の内容

■開催期間：2021 年 7 月 10 日（土）～2021 年 10 月 26 日（火）
（8 月 16 日～9 月 17 日は緊急事態宣言発令により臨時休館）

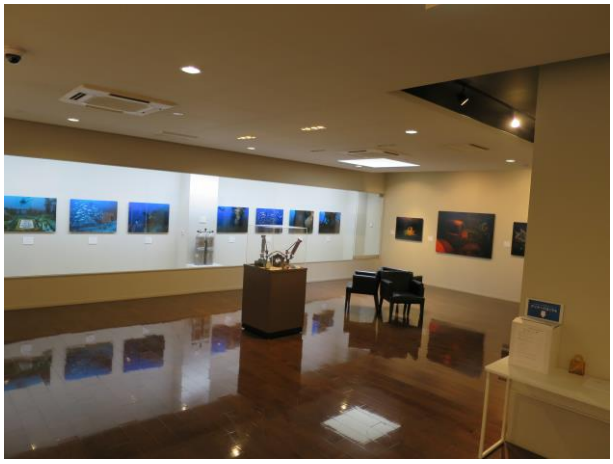
■開催場所：三宅美術館　２階絵画展示室

■入場者数：655 人

三宅美術館　外観

企画展会場　入口

1.チュークの日常
本展で展示されている写真作品の撮影地となったミクロネシア連邦チューク州について、パネル展示で分かりやすく紹介した。具体的な概要と併せて、観覧者がチュークについてイメージしやすいよう工夫し、チュークの人々の日常写真をコラージュにして展示をした。また、チューク環礁の海と鹿児島湾を比較したパネルを展示することで、地域によって海の成り立ちが異なり、環境も異なることを学べるようにした。

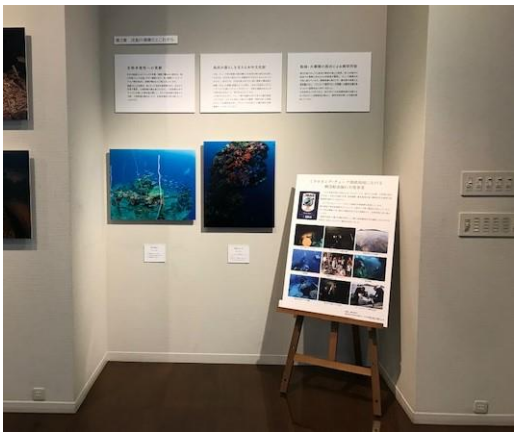


２．海中遺跡と豊かな自然

チューク州が水中文化遺産として保護している日本の沈船などの海中遺跡の写真作品をとおして、海中遺跡がおりなす独特の美しい海中風景を知ってもらい理解を深めてもらう展示とした。

実際に撮影に使用された撮影機材、大深度で使用するダブルタンクを展示することで、来館者が興味・関心をもてるよう工夫した。

チューク環礁の海中や撮影された海中遺跡の動画を展示することで、海に潜ったことのない来館者や子どもでも海中の様子や水中撮影の状況を理解し、作品をより深く理解できるようにした。



３．沈船の漁礁化とこれから

沈船が長い年月を経て漁礁と化し、環礁の海で多くの生物の住処となり、生物多様性を生み出している様子を写真作品で紹介し、視覚的に分かりやすく紹介した。
また、沈船の生物多様性への貢献、島民の暮らしを支えている現状、経年劣化による海洋汚染の懸念をパネルで展示し、より深く理解できるように工夫した。
沈船からの漏油による海洋汚染は、予防するために事前に漏油処理の活動が行われていることをパネルで紹介し、日本の団体が行っている活動を学べるようにした。

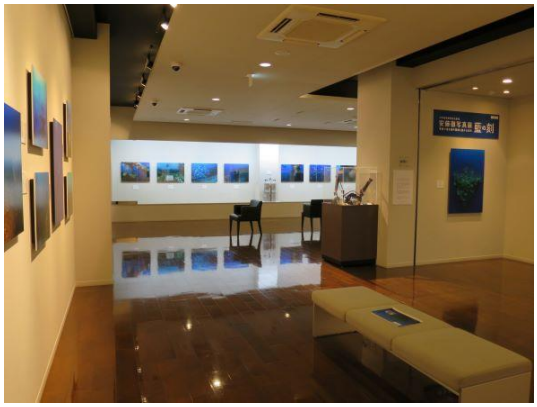
【来館者の声】

◯沈船が長い時間をかけて漁礁となって生態系の一部となっていることを知って、自然のもつ雄大さを感じた。
◯ひとくちに海といっても、いろんな海があることを知って、いつまでもこの海をきれいなままの状態で残せたらいいなと思います。
◯海底の様子を垣間見て心がおどりました。美しい自然を皆で守っていかないといけない、そう強く思いました。
◯海の中にこんな世界が広がっているとは。写真に引き込まれてしまいそうに感じた。陸の環境や生態に関心が向かいがちだが、海のそれも同じように関心を向け共存していきたいとつくづく感じた。
◯展示写真から海（自然）の神秘さや美しさ、きびしさ、楽しさ、いろんなものを学んだ気がします。
◯水深 45mであんなに鮮やかな世界があるのだと、とても魅了されました。
◯海を守るという認識をたくさんの人々が共有する必要性を感じる写真だった。
◯70 年以上前の沈船が当時の形で残っていて漁礁と化し、サンゴや魚と一体化している様は壮観でした。人間の歴史と海との融合という新たな海の一面を感じました。
◯自然の恵みに感謝できるくらい美しい写真。この美しい海がいつまでも続いてほしいと感じる写真展でした。
◯写真のように美しいままでいられるように、海を汚さないよう協力したいと思った。
◯貴重な海の遺産を知ることができました。
◯たくさんのきれいな魚が泳いでいて、見えないところにある新しい美しさを学んだ。
◯海は広くて遠い存在だと思っていましたが、もっと身近で私たちにも環境保全に何かできることがあるのではと考えさせられました。
◯地球、自然、歴史、アートが一体となり、いつもいる世界と違う神秘の世界を感じた。
◯一般の人にも水中文化財への関心をひいた展示。海の自然の美しさ、大切さをあらためて感じました。生物多様性の維持や、海洋汚染を減らす取り組みなど日頃から高い意識を持って自然と共存する社会を目指していかなければと思いました。

2．関連事業の内容

■ギャラリートーク

【開 催 日 時】第一回 2021 年　7 月 10 日（土）14：00 ～ 14：30
第二回 2021 年　7 月 10 日（土）18：00 ～ 18：30
第三回 2021 年 10 月 26 日（火）14：00 ～ 14：30
【開 催 場 所】展示室
【参 加 者 数】第一回　24 名（一般）
第二回　12 名（ダイバー）
第三回　 9名（一般）
【目標・内容】
●写真家本人による作品解説。参加者の事前の海への理解度に応じて解説の内容を少し変更していただいた。一般参加者に向けた回では、写真撮影時のエピソードやダイビングガイドならではの海の話などを聞きながら作品を鑑賞し、海中遺跡がおりなす独特の風景の美しさ、海中遺跡の保護の必要性、美しい景色を支える生物多様性の大切さについて理解を深めてもらった。ダイバー向けの回では、より専門的な観点から解説を行うことで、水中文化遺産や海中遺跡の存在意義、保護の必要性を学ぶ場となった。



第一回ギャラリートーク（一般観覧者向け）では、作品鑑賞の前に、まず海中の様子など基本的な海のことを学び、作品の解説をとおして海中遺跡の存在や、本来サンゴしかない礁湖の海で沈船が漁礁と化し、漁礁となった沈船は神秘的で美しいだけでなく、魚の産卵場や小さな魚の隠れ家となり、それらを餌とする大きな魚が集まる場となることで、生物多様性を育む役割を担っていることを学んだ。また、経年劣化した沈船から漏れ出る油が海洋汚染の原因となっていること、海洋汚染はプラスチックごみの問題だけではないことを学んだ。
また、私たちにとって一番身近な鹿児島湾とミクロネシアの海の違いなども学んだ。

第二回ギャラリートーク
ダイバー向けに作品解説をしている様子

ダイバーからの専門的な内容の質問に答える
安藤氏

第二回ギャラリートーク（ダイバー向け）では、海や水中撮影について基本的な知識のある参加者が対象だったため、より専門的な内容で水中文化遺産や海中遺跡の存在意義と保護の必要性を説明することで、日頃のダイビングで目にしているものが、実は貴重な文化遺産や保護する対象である可能性があることを学び、身近な海の遺産や環境を保護する意識づけとなった。参加者の質問も多岐にわたり、多角的に作品を鑑賞する学びの場となった。

第三回ギャラリートーク受付の様子

第三回ギャラリートークの様子

第三回ギャラリートーク（一般観覧者向け）でも作品解説の前に、海中の様子や海中遺跡、水中での写真撮影についての基本的なことを学んだ。開催が再延期後の日程で参加者が少人数だったことから、写真家と対話形式で作品解説をおこなった。参加者の年齢層が若干高かったこともあり、そのつど質問しながらの対話形式にしたことで、作品の理解、海に対する興味がより深まり、豊かな鑑賞時間を過ごせたとの声が多かった。

【来館者の声】

◯海中遺跡という言葉を初めて知った。海面下に広がる世界は別世界と思っていたが、私たちの生活の延長線（一部）であることを実感させられた。
◯身近な鹿児島の海の大切さを、あらためて感じました。
◯水中写真に対する関心が強まりました。海の環境を大切にして、海の素晴らしさを多くの人に知ってもらいたいと思いました。
◯将来、水中写真家になりたいので、水中写真家の話を聞けてよかった。
◯海はこれから何百年、何千年と続いていくものだから、今自分たちがこの時代の海を守って将来に繋げていきたいと思った。
◯私たちが経験できない海の様子を伝えていただき、いろんな角度から海の様子を見ることができて感動しました。
◯同じ「海」でもいろんな海があることを知って行ってみたくなりました。いつまでもこの海をきれいなまま残せたらいいな、と思います。
◯海の環境を大切にして、海の素晴らしさを多くの人々に知って頂きたいと思った。
◯海に沈んだ船があんなにカラフルできれいだと思いませんでした。海の中（海の藍色）もとてもきれいでした。
◯ゆっくり話を聞けて海の中の世界に入り込めた。時間が生物を成長させ海の世界を作っていることを学んだ。
◯海は大切なもの。大事にしたい。

■谷山ふるさと自然文化体験 in 三宅美術館

【開催日時】2021 年 7 月 21 日（水）10：00 ～ 12：00
【開催場所】展示室
【参加者数】23 人
【実施内容・目的】

- ●地元の小中学生の親子見学会。美しい水中写真を鑑賞し、水中写真家本人による解説を聞くことで、親子で海について話し、考える機会となった。
- ●ダイビング器材や水中撮影用の機材を実際に触れることで、陸上と海中の環境の違いを実感し、作品鑑賞とは違う視点で海に興味をもってもらうことができた。

ギャラリートーク会場

オリエンテーションの様子

ダイビングガイドの仕事や水中撮影
について解説している様子

作品解説をしている様子

先ずは安藤氏が実際にガイドをしている様子や水中で撮影している様子のパネルを見ながら、水中写真家、ダイビングガイドという仕事について学んだ。作品鑑賞をとおしてミクロネシア連邦チューク州では沈船が水中文化遺産として大切に保護されていること、保護された沈船があることでたくさんの魚が棲むことができることを学んだ。また、私たちの生活の延長に海があり、日常と海の環境がつながっていることを学んだ。

ダイビング器材について説明している様子

レギュレーターから空気を出すと残圧計が動くことを確認している様子

フル装備を体験している様子

フィンを履く体験をしている様子

海の中に潜るには、どのような器材がどういう理由で必要なのかを学び、適した器材と正しい知識、判断力があれば安全に海を楽しめることを学んだ。実際に器材に触れたり、身に付けたりすることで、海への関心が深まり、海を身近に感じる機会となった。

【参加者の声】

○海を守り、大切にしていく方々が少しでも増えたら世界の海はもっときれいに保てていくと感じました。
○作品から海の美しさを十分に感じられた。大切に守っていきたい。
○安藤さんの話に感動した。あらためて「海」に関心を持つきっかけになった。
○ダイビングの道具を実際に見て触れるというのは初めてでした。おもしろく、いつか海の中を見てみたいと思いました。
○実際に器材に触れたりして、知らなかった海の世界を学ぶきっかけになった。自然環境だけでなく、もっと海の中の世界を学びたいと思った。
○ウェットスーツを着てみて、海にもぐってみたいと思いました。海の世界に囲まれて楽しい一日でした。もっと海を大切にしたいと思いました。
○水中にもぐる道具を近くで見られてよかった。
○ダイビング器材の体験ができて、海に行くのは大変だなと感じることができました。
○写真がきれいだった。もっと海の魚を知りたいと思った。

■ビーチクリーンアップ in 坊津

【開催日時】2021 年８月 11 日（水）10：00 ～ 11：30
【開催場所】la・bomba 坊津スノーケリング ＆ スクーバダイビングパーク
（南さつま市坊津町泊 荒所海岸）
【参加者数】21 人
【実施内容・目的】
●安藤氏と一緒に行う南さつま市坊津海岸の海岸清掃。
●漂着物（ゴミ）を拾うことで、どのような種類の漂着物があり、それらがどこからどのように流れてきたのか想像し、今後私たちはどうしなければならないのか考える機会となった。

クリーンアップ前の海岸
台風９号上陸で多くの漂着物が打ち上げられている

受付の様子

雨の中、漂着物を拾う参加者

打ち上げられたカゴやロープを拾う様子

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

小さな漂着物は手で拾う

打ち上げられた漁網を拾う様子

クリーンアップ後の海岸

参加者集合写真（一部）

写真家の安藤徹氏と南さつま市坊津の海岸清掃活動を行った。開催日は台風通過直後で海岸には多種多様な漂流物が漂着していたこともあり、参加者は多くの海洋ゴミを目の当たりにすることで現状を知り学ぶことができた。また、それらの漂着物をとおして、今後自分たちが海を汚さないために何ができるかを考える機会となった。

【参加者の声】

◯海のゴミひろいは、普段行えるようなことではないので、きれいな海でも裏でそれを保つために行われていることに関わって、海について学ぶきっかけなった。
◯普段よく見ているビーチも、よく見るとゴミが多いことを改めて感じ、ビーチクリーンの大切さを感じた。
◯人工のゴミが多い。海洋生物にどれほどの脅威になっているだろうかと、心配になった。定期的な活動をすることが大事。参加者が増え、海をきれいにしたいと思う人が増えることを願います。
◯遠い海（国）から流れてくると聞いて驚きましたが、ごみの多さにもびっくりでした。
◯身近なものが海を汚すごみになってしまうのを改めて感じました。
◯海にごみを捨てる人が多くて、いけないと思った。
◯海にはたくさんのゴミが流れていることを改めて実感した。
◯ひとり一人のポイ捨てが海をこれだけ汚している。自分も気を付けなければならいと学びました。
◯疑似餌や漁網など、海と関わる人たちのゴミがあるのがショックでした。

■心に残った作品投票

【開催日時】2021 年７月 10 日（土）～2021 年 10 月 26 日（火）
（8月 16 日～9 月 17 日は緊急事態宣言発令により臨時休館）
【開催場所】展示室
【参加者数】３３５人
【実施内容・目的】

- ●作品を選ぶにあたり、作品１点１点とじっくりと向き合うことで、作品をより理解し、海について考えてもらう。
- ●投票結果は月ごとの集計結果と会期中の総合集計結果をホームページで発表した。

好きな作品をアンケートに記入

会期中の投票結果をホームページで発表

７月投票結果

８月投票結果

９月投票結果

１０月投票結果

来場者アンケートの最後に「一番印象に残った（好きな）作品を１点」記入する欄を設け、鑑賞後来場者に記入してもらい、月ごとの集計結果と会期中の総合集計結果をホームページで発表した。アンケートをとおして来館者が作品１点１点とじっくりと向き合うことで、作品をより深く理解し、海中環境について想像を膨らませ、思いを巡らすことができた。海を身近に感じ理解を深めるための導入として作用した。

【事業全体のまとめ】

●日本から 3,500 キロも離れた海に、日本とかかわりの深い海中遺跡が存在し、水中文化遺産として保護されている事実を鹿児島県在住の水中写真家の作品をとおして広く県民に知ってもらうことができた。また、海中遺跡の作品をとおして、その独特な海中風景の美しさや、それら沈船が漁礁と化し生物多様性を育む環境を支えている現状も知ってもらうことで、海の環境を考える機会を提供できた。
●地域団体と連携して開催した小中学生の親子見学およびダイビング器材体験をとおして、海で泳いだことのない子どもたちにも海について考え、関心を持ってもらえる機会を提供できた。
●ビーチクリーンアップの開催が台風接近直後だったことから、多種多様な海洋ゴミの漂着を体感することができた。参加者の中には以後、安藤氏が毎月主催するビーチクリーンアップにも継続的に参加するようになるなど、環境保全の意識づけの成果がみられた。
●付帯事業の一部では、県内で大雨特別警報や新型コロナウイルス感染拡大予防のための緊急事態宣言が発令されたことにより、目標人数に達しなかった。

3．主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．谷山ふるさとコミュニティ協議会	「谷山ふるさと自然文化体験 in 三宅美術館」開催
2．戦没した船と海員の資料館	資料・写真提供
3．日本地雷処理を支援する会（JMAS）	資料・写真提供
4．Island Research & Education Initiative（iREi）	資料提供
5．ダイビングショップ la・bomba	ビーチクリーンアップ会場およびの提供

4．主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．美術の窓　1月号	「行ってみたい！編集部おすすめの小さな美術館」2021 年1月 20 日発行
2．鹿児島市公共掲示板	ポスター掲示 2021 年６月７日～7 月４日
3．南日本新聞	「海洋遺跡の写真 42 点」2021 年7月 17 日
4．MBC 南日本放送ニューズナウ	「夏休みの子どもたち、海中遺跡写真に触れる」2021 年７月 21 日 18：15～
5．朝日新聞	「沈没船と自然が織りなす風景」2021 年 10 月５日

以上